

ゆるとセンターの根本的な意義に向き合い直すことができた

小林高志さん（教員）

動きを一度で見とれない性質（タチ）なので、DVD は本当にありがたいです。「術理」を実演を交えてじっくり説いていただき、ゆるとセンターの根本的な意義に向き合い直すことができました。「回軸双振」の動きをもって全身の各パーツをゆるめていくことは、以前はほとんどできていませんでしたが、今回はかなり実感をもって取り組むことができました。手のうち（中指骨・手根骨・手首）がゆるみ、剣の他者中心操作を少し体感することができました。ニウナニ転子のポジションが重要なようです。腰をゆるめもっと正しいポジションに乗れるようにしていきたいです。「立軸剣手剣」は本当にキレのあるメソッドで、従来の環境センター法・一面手法・壁角法との関連を深めていきたいです。「側軸双斬」はもともと好きなメソッドだったのですが、ゆるんだ手のうち・腕でやると全然ちがうことがわかりました。ただどうしても「面」を強く意識し過ぎてしまうので、「さりげなく」を大切にしていきたいです。＜初伝一の巻＞

武蔵の剣で生活の質が底上げされた

T.A さん（整体師）

この度は貴重な講座を受講をいたしました。高岡先生の理解しやすい説明と、極意状態に入りやすいリードは相変わらず私の生活の質を底上げしてくれました。これからも基本をしっかり身に付け、この極意を生活の場で活かそうと思います。ありがとうございました。＜初伝一の巻＞

他の講座とも根本の原理は同じ、地芯・センターの追究が大切

R.S さん（公務員）

今回、講座が刷新されたとのことで、8 年振り位で久しぶりに受講しました。また貸出 DVD 方式となったことから、生講座と違い日程も気にせずに受講することができました。この術理編では、武蔵は類まれなる研究者、実践者、アスリートであること、そして「心を水になる也」ということがとにかく重要であることが分かり、他の講座とも根本的には同じ原理であること、同じく地芯・センターを追及していくことが重要であることが分かりました。武蔵の剣の講座を受けることにより、他の講座を学ぶ上でも必ず役立つ、また私は武協（極意武術協会）会員ですが私どもの武術の上達にも必ず資することが分かりました。今後、二の巻以降も受講し、少しでも武蔵が達した境地に近づきたいです。＜初伝一の巻＞

武蔵が真の達人、大天才であることが確認できた

前回の術理編に比べて剣を使った技法が多く紹介されていました。それでも重要な事は前回指導いただいた「水を本となるなり」を基本に、それを忘れずに地芯に乗りセンターに身を任せて全てを行うことの重要性を再認識しました。まだ始まったばかりですが、情報量の多さに驚いています。押さえてはいけない要点をノートに記録しましたが、いつも講座（連続講座等）を視聴しながらノートに記録する量に比べて圧倒的な量の多さです。剣を操作するという具体的な技法について、武蔵が書いたことは何か、それを高岡師範が解説され更に武蔵も表現できなかった事をプラスされて説明され、その技法の真の要素、どのような点に注意するべきか、現代人の陥りやすい点等を詳細に説明されているので、必然的に量は増えると思います。五輪書に書かれている真の内容を解説された高岡師範は当然素晴らしいのですが、その解説された内容により初めて武蔵が真の達人、大天才であることを学問として、客観的に認識することができました。そして改めて高岡師範の業績が誰にも真似できない革命的なものであることを認識しました。ご指導いただいた内容を少しでも吸収して武蔵に少しでも近づくことができるよう精進したいと思います。＜初伝二の巻＞

この他にも多くの感想をお寄せいただき、ありがとうございました。

紙面の都合により一部の方のご感想の紹介となりましたが、ご了承のほどお願いいたします。
運動科学総合研究所